

アルメニア UWCディリジャン校 指岡 さん

留学期間：R1.8～R3.6（2年間）

私はコーカサス地方に位置する内陸国アルメニアのUWC Dilijan（ディリジャン）というインターナショナルスクールに通っています。2学年あり、全校生徒は230人程しかいない一見小さな学校ですが、国籍数は80にも及ぶ、謂わば“地球のミニチュア”のような世界規模の学校です。

緊張しながらも期待に胸を膨らませながら昨年8月にアルメニアに渡り、早4ヶ月。毎日が楽しくて仕方がありません。様々な経験をし、変化を実感しています。

まず、初めの1ヶ月のうちに自分のプライドが良い



ルームメートと

しかし、そのプライドを捨てて、分からないときは聞き返すようにしてみました。すると、英語が急激に理解できるようになりました。ハードな状況に身を置いて、苦労はしましたが、プライドを捨ててチャレンジすることで、大きな成長を得ることができました。



課外活動で洞窟体験

できてできなかった経験をするチャンスが沢山あります。その他にも、町の子供に英語やサッカーを教えるボランティアを行ったり、ロボットを組み立てて、プログラミングを学んだりなど、新しいことに挑戦しています。

さらに、UWCの魅力は「人間」です。バックグラウンドの全く異なる生徒達と24時間共同生活のため、日常会話でさえ発見の連続で、飽きることはありません。新しい文化、宗教、考え方を知り、世界観が大きく広がったことを実感しています。

こうした「日本では非日常体験」が日常の中に当たり前の様に転がっています。

このような貴重な経験ができることは、奨学金のためにふるさと納税に協力していただいた方々がいてこそです。本当にありがとうございます。この期待に応えるため、感謝と学ぶ姿勢を忘れず、日々精進してまいります。これからもご支援のほどよろしくお願いいたします。



世界各地からの留学生

意味で打ち砕かれました。

た。英語が全く聞き取れませんでした。国内では英語学習で困ったことなど一度もなかった自分にとって、これは多少なりとも屈辱的であり、認めざるを得ない事実でした。「Can I turn off the light?」アメリカ人のルームメイトが言ったこんな簡単な文章すらも聞き取ることができません。もちろん授業など理解できるはずもありません。経済の先生が日本のことについて自分に何か聞いてきたことがありました。内容は全く分かりませんでした。聞き返せばいいものの、プライドの高い自分は分かっているふりをしていました。し

勉強面では、すべての授業がアクティブラーニング形式で、日本では積極的に発言する生徒だった私が押されるほどに皆が発言し、能動的な充実したスタイルの学習をしています。新しい言語、スペイン語にも挑戦しています。また、初めのうちこそ授業がわからなかったものの、生徒一人一人のバックグラウンドが異なることもあり、自分にとっては復習が主となっているため、現在は大きな苦労はありません。その分、他のことに注力することができています。現在私が力を入れているのが課外活動、主にアウトドア活動です。この4ヶ月の中でも、ハイキングをはじめ、洞窟探検や湖でのセーリングなど、

日本で

は忙し



課外活動でセーリング